



平成29年度 ベトナム研修

ベトナム研修の概略

国際コース第2学年は東南アジアを中心に世界の現状と課題について研究班単位で調べ学習を行い、班のテーマを決め、研究論文を半年ほどかけて完成させました。実際に現地(ベトナム)に赴き、完成した研究論文を現地の高校生や国連機関である WHO で発表しました。そこでまた新たな発見があったり、自分の研究成果を公の場で発表することでさらなる成長につながる充実した研修になりました。また、啓明コースの第1学年は、これから進めていく課題研究に向けて非常に多くの知識や経験を得ることができました。今後の課題研究の成果が期待されます。

◆ 研修日時

平成30年3月25日(日)～30日(金) (5泊6日)

◆ 訪問地域

ベトナム(ハノイ)

◆ 研修目的

- ・ベトナム(東南アジア)の文化・歴史・経済について知り、肌で感じる。
- ・研究テーマに関し調査・研究を行う資料を集める。
- ・現地の人々とふれあい、異文化理解・多文化共生の感覚を身に付ける。
- ・グローバル人材としての問題解決能力・コミュニケーション能力・発信力を身に付ける。

◆ 研修参加者: 第2学年:15名 第1学年:3名



コース	氏名
国際	本田雄大 安藤華音 平野茂慈 小川 藍 柿元壮太 久米翔
	酒井辰揮 安藤麻琴 井出萌佳 岩城亜衣子 岩瀬叡実 遠藤咲菜
	土肥風花 松永 凜 梶田南月
啓明	小野眞優 桐山尚子 知崎佑紀

事前研修



ベトナム研修に行く前に、全6回の事前学習を行いました。現地で何を感じ、何を学びたいのかをより明確にし、効率のいい学習をするために、生徒を4つのグループに分けて行いました。各訪問先を事前に調べた上で、浮かんだ疑問をもとにどのような質問をするかを話し合いました。文化交流準備では班ごとに交流内容を決定し、日本文化の紹介や体験コーナーの準備をしました。現地で発表を行う4グループも熱心にスライドの作製やプレゼンテーションの練習をしました。しっかりとした事前学習と、生徒の皆さんの積極的な姿勢により充実した研修が実現しました。

■ 研修行程

日程	行程
3/25(日)	中部国際空港 ↓ ハノイ(ノイバイ空港)着 ハノイ民族博物館
3/26(月)	市街地フィールドワーク 日本大使館 VJCC(ベトナム日本人材協力センター)
3/27(火)	パナソニックリスーピア 歴史博物館
3/28(水)	ハノイ国家大学外国語学部付属英才高校 現地で働く日本人(JTB 鈴木さん)による講話
3/29(木)	WHO訪問 旧市街地フィールドワーク ハノイ(ノイバイ空港) 発
3/30(金)	中部国際空港着

初めての東南アジア

さっそく現地の街の雰囲気味わうべく、旧市街地を散策しました。これは最終日のフィールドワークの下見も兼ねたものです。見慣れない光景や新鮮な習慣にみな胸が高鳴っていました。

* 日本大使館

普段は入ることのできない大使館を訪問させていただきました。大使館の職員の方の仕事や、現地の情報を教えていただきました。



* VJCC

現地の大学生に日本語を教えている人材教育機関です。現地の大学生と意見交流をしました。



● ハノイ国家大学外国語学部付属英才高校

現地の高校を訪問し、意見交換、研究発表、文化交流を行いました。それぞれがお互いの理解を深めることができました。文化交流では、日本語クラブの生徒たちと一緒に両国の伝統衣装(アオザイ・浴衣)の紹介と試着や、けん玉体験、日本のクイズ、ベトナムの石ころ遊びなどで大変盛り上がりました。日本語クラブの生徒の日本語力は、本校の生徒も驚くほど高いものでした。授業のなかで本校の研究発表を行うなど、充実した交流ができました。



● WHO訪問

国連機関に訪問できる機会は多くはありません。今回は国連の職員の方々に本校生徒の研究発表を聞いていただき、世界の医療制度に必要なことは何か、どのようなことに視点を置き学んでいく事が重要かを教えていただきました。また、国連機関の仕事の内容や現在ベトナムが直面している問題等、さまざまな内容を学習しました。世界で働くことの魅力や、大変さを学べる絶好の機会となりました。非常に貴重な体験をすることができました。



まとめ

今回の研修で、異文化を実際に体験し、これまで当たり前と感じていた自分の世界が、いかに狭いものであったか実感することができたと思います。その中で感じた多くの疑問や驚き、問題点が、生徒の新たな成長につながるものとなったと思います。今回訪問を受け入れてくださった方々、またこの研修旅行に参加させてくれた両親への感謝を忘れることなく、それぞれの今後の学習にこの貴重な体験を活かして欲しいと思います。